

医師のための生成 AI 超活用術 本質を知り使いこなす

三澤 将史 著

＜書評者＞ 松井 健太郎

(国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター病院
睡眠障害センター長)

「生成 AI が大事なのはわかる。でも、結局どう使えばいいのか。」

そう感じている医師は、決して少なくはないはずです。ChatGPT を少し触ってはみたものの、医療の現場でどう生かせばよいのか、そもそも何が得意で何が苦手なのか、もやもやを抱えたままの方も多いのではないのでしょうか。本書『医師のための生成 AI 超活用術—本質を知り使いこなす』は、その「もやもや」に正面から答えてくれる一冊です。

まず驚かされるのは、原理からの丁寧な解説です。トークンという単位、トークナイザーによる文章の分割、トランスフォーマー、スケーリング則など、生成 AI の「中身」が、医師にも届く言葉で順を追って説明されています。また、AI が得意なことと苦手なことの両方をフェアに示してくれるので、過度な期待にも過度な不信にも傾かず済みます。引用文献がしっかり添えられているのも誠実に素晴らしいです。

ツール紹介の幅広さも本書の魅

力です。ChatGPT を軸にしつつ、Claude や Gemini、NotebookLM、論文検索に使える AI ツールが紹介されていますし、さらには Genspark や Manus のような AI エージェントツールまで、幅広く取り上げられています。臨床現場での活用、論文検索や執筆といった研究での活用、そして Claude Code や Codex を用いた Vibe coding、ローカル LLM の活用まで、基礎から今後の展望まで、一冊の中で自然につながっています。

私自身、『医療者のための ChatGPT—面倒な事務作業、自己学習、研究・論文作成にも！』『医療者のための ChatGPT BEYOND—文献検索、申請書・論文作成、学会発表…ここまでできるのか！』（共に新興医学出版社）という書籍を執筆してきました。だからこそ、本書の網羅性と構成には圧倒されました。自分の本では十分に扱いきれなかった範囲まで、これほどバランスよく整理されている。これだけの内容を一人で書き上げた三澤将史先生には、

同じ書き手として深い敬意を覚えます。

すでに生成 AI を使いこなしている方には、一部はおさらいに感じられるかもしれません。それでも、これから生成 AI を学びたい医師、あるいは「なんとなく使ってきたけれど原理は曖昧なまま」という医師にとって、本書は最良の出発点になります。最初から全てを覚える必要はありません。まずは原理の章に目を通し、気になったツールの一つ試してみる、それだけで、生成 AI との距離はぐっと縮まるはずです。

率直に「隙がない」と感じる一冊でした。生成 AI 時代を医師としてどう生きるか。その土台を、安心して託すことのできる本です。

● A5 頁 272 2026 年 4 月

定価：3,960 円

(本体 3,600 円＋税 10%)

[ISBN978-4-260-06547-4]

医学書院刊